

中学校第2学年 社会科 学習指導案

1 単元名

「日本の諸地域（九州地方）」（東京書籍）

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領地理的分野の内容(2)「日本の様々な地域」の中項目ウ「日本の諸地域」を受けて設定したものである。本単元では、九州地方の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考察することを通して、九州地方の地域的特色を捉えさせることを主なねらいとしている。

本単元において、地域的特色を追究するために適切な課題を設定し、他者と協働しながら課題を解決する学習を行うことは、社会に見られる様々な課題の解決に向けて構想するという点で、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

(2) 系統観

第1学年(10月)	第2学年(10月) 本時	第2学年(11月)
「世界の諸地域」 内容(1)－ウ	「日本の諸地域（九州地方）」 内容(2)－ウ	「日本の諸地域（中国・四国地方）」 内容(2)－ウ

(3) 生徒観

平成28年度県学力調査において、本校生徒の定着率は全ての観点で県平均を上回っていた。しかし、基礎的・基本的な知識や資料活用の技能に関しては、定着率が20～30%の問題もあった。

本単元を学習するに当たり、質問紙調査及び評価問題を行った。結果は以下のとおりである（生徒数38名）。

1. 社会科の学習で「楽しい」と感じる活動は何ですか？

- ①先生の話聞く (20名) ②自分で課題を追究する (10名) ③学び合いをする (20名)
④見学活動 (20名) ⑤発表をする (7名) ⑥自分の考えを書く (10名)
⑦討論をする (10名) ⑧学んだことを生かして新聞やレポートにまとめる (12名)

2. 社会科の学習で「分かった」と感じる活動は何ですか？

- ①先生の話聞く (32名) ②自分で課題を追究する (6名) ③学び合いをする (31名)
④見学活動 (11名) ⑤発表をする (6名) ⑥自分の考えを書く (7名)
⑦討論をする (13名) ⑧学んだことを生かして新聞やレポートにまとめる (8名)

3. 基礎的・基本的な知識を問う問題について

- A (十分満足) (35名) B (満足) (3名) C (支援が必要) (0名)

4. 複数の資料を関連付けて説明する問題について

- A (十分満足) (15名) B (満足) (13名) C (支援が必要) (10名)

学び合いをすることで楽しさを感じたり、分かったと感じたりしている生徒は多く、学び合いのよさを実感していることが分かる。一方で、「自分で課題を追究する」「発表をする」を選んだ生徒は少なく、主体性に課題が見られる。また、複数の資料を関連付けて説明することにおいては、支援を要する生徒が3割近くいる。

(4) 指導観

- 生徒が主体的に課題を追究することができるように、適切な課題を設定するとともに、調べ学習の時間を確保する。
- 全ての生徒が資料の読み取りや資料を活用した説明ができるように、資料の精選を図るとともに、互いに協力しながら調べ学習を行わせる。
- 課題解決のための言語活動を充実させるために、本時のめあて、学習課題、学習の流れを示すとともに、課題解決のために必要な視点と方法（考察の仕方）を明確にする。

研究の視点1

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

- ①「美しく自然豊かな九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵は何かを探ろう」という単元を貫く問いを設定し、見通しを持って学習に取り組ませる。
- ②九州地方の環境を守る取組について、観光業、農業・畜産業・工業の視点から協働しながら調べさせ、単元を貫く問いを解決できるようにする。

研究の視点2

学びを実感する振り返りの工夫

- ③自分の考えの変容や、その変容を生み出した他者の考えが一目で分かるようなワークシートを用いる。
- ④視点を明確にした振り返りを行わせることで、生徒が学びを実感できるようにする。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	九州地方の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などに関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどを考察することを通して、九州地方の地域的特色を捉えることができる。		
社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
①環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に、九州地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	①九州地方の地域的特色を、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①九州地方の地域的特色に関する様々な資料から、九州地方の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。 ②適切に選択した情報を基に、九州地方の地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	①環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に、九州地方の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

4 指導・評価の計画（8時間取扱い 本時8／8）

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	3	1 九州地方の自然環境の特色について考える。 2 九州地方の人口や産業の特色について考える。 3 単元の学習課題を設定する。	【関心・意欲・態度】 ①：発表・ワークシート 【資料活用の技能】 ①②：ワークシート 【研究の視点1】 ①九州地方の自然環境，人口や産業の特色を踏まえて，九州地方の環境を守る取組を紹介し，「美しく自然豊かな九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵は何かを探ろう」という単元を貫く問いを設定する。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>単元を貫く問い 美しく自然豊かな九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵は何かを探ろう。</p> </div>			
二	3	4 九州地方の環境を守る取組について調べ，環境を守り続けていくために必要な鍵を探る。 (1) 観光業の視点から調べる。 (2) 農業・畜産業・工業の視点から調べる。	【資料活用の技能】 ①：ワークシート 【研究の視点1】 ②九州地方の環境を守る取組について，観光業，農業・畜産業・工業の視点から協働しながら調べさせ，単元を貫く問いの解決に向かうようにする。 【研究の視点2】 ④「必要な鍵について見えてきたこと」「次に調べたいこと」を振り返らせることで，生徒が学びを実感するとともに，学びがつながるようにする。
三	2 (本時2／2)	5 九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵について考える。 (1) 観光業，農業・畜産業・工業グループに分かれて，必要な鍵について考える。 (2) それぞれのグループの考えを交流し，それらをもとに，最終的な自分の考えを持つ。	【思考・判断・表現】 ①：発表・ワークシート 【研究の視点1】 ①九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵について，観光業，農業・畜産業・工業の環境保全の視点から考えさせる。 【研究の視点2】 ③自分の考えの変容や，その変容を生み出した他者の考えが一目で分かるようなワークシートを用いる。 ④単元を通して分かったことや学んだことを振り返らせることで，生徒が学びを実感できるようにする。

5 本時の学習

(1) 目標

九州地方の環境を守る取組について調べてきたことを交流することにより、環境保全の在り方について多面的・多角的に考えることができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5 分	1 本時の目標（めあて）を確認する。 (1) 前時の復習をする。 (2) 本時の目標（めあて）と学習課題（問い）を確認する。 学習目標（めあて）	○前時までの内容とめあてを確認する。 徹底指導 （ポイント） ○生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるように、本時の流れを示す。生徒がめあてを達成できるように、それぞれのグループの考えを参考にすることを伝える。	電子黒板 本時の流れ
展開 35 分	2 [本時の問い]について話し合う。		
	(1) 観光業、農業・畜産業・工業グループで調べてきたことや考えてきたことを班で出し合い、必要な鍵について考える。 (2) 必要な鍵について班で考えたことを全体で交流する。 【言語活動】（設定の意図） 各グループ、全体での話し合いや意見交流を通して、[本時の問い]について多面的・多角的に考えることができるようにする。	能動型学習 （ポイント） ○他のグループとの共通点や相違点に着目しながら話し合わせる。 ○根拠（資料）を明確にしながら発表させる。 【研究の視点1】 ①九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵について、観光業、農業・畜産業・工業の環境保全の視点から考えさせる。 【研究の視点2】 ③自分の考えの変容や、その変容を生み出した他者の考えが一目で分かるようなワークシートを用いる。	ワークシート
整理 10 分	3 学習したことをまとめる。 (1) [本時の問い]に対する最終的な考えを持つ。 (2) 考えをペアで交流する。	○班や全体での交流をもとに、[本時の問い]に対する納得解をまとめさせる。 評価：思考・判断・表現（発表・ワークシート） B基準 九州地方の環境を守り続けていくために必要な鍵について、観光業と農業・畜産業・工業の環境保全の視点から考えている。 A基準 B基準に加え、自分の生活と関連付けながら考えている。 〈B基準に達していない生徒への手立て〉 ○各グループの発表をもう一度振り返らせ、具体的な環境保全の取組を確認させる。	ワークシート
	4 学習したことを振り返る。	○単元を通した振り返りをさせる。 【研究の視点2】 ④単元を通して分かったことや学んだことを振り返らせることで、生徒が学びを実感できるようにする。	振り返りカード